



2024年12月13日

日本鉄道労働組合連合会

## JR貨物連合第15回定期大会

組織課題を組合員一人一人が共有し、一人でも多くの組織拡大が出来るよう、取り組み強化を推し進めていこう！

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は11月13日、静岡県浜松市内で第15回定期大会を開催し、向こう1年間の活動方針を決定するとともに、新年度の役員体制を確立した。

大会の冒頭であいさつに立った辻村和裕会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は、自然災害や安全問題に触れ、「JR貨物の使命は安全・安定輸送だが、定時運行を意識し過ぎて事故を発生させると意味がない」と訴え、周囲の模範となる行動を心掛け、安全確立の運動を組織強化にもつなげようと呼びかけた。また、政策、会社経営、組織強化・拡大、人口減少社会に対する所見を述べ、「JR貨物連合運動の先頭に立って組織を盛り上げていく」との決意を明らかにした。



JR貨物連合 辻村和裕会長



JR連合 荻山会長

JR連合からは、荻山市朗会長と住吉一家労働政策局長（グループ労組担当）が出席し、代表してあいさつした荻山会長は、安全、政策、政治、労働条件、組織強化などについて、直近のJR連合の取り組みを報告するとともに、特に貨物モーダルシフトの推進については、JR各社間の連携が必要であり、JR連合としても積極的に関わっていく考えを示した。

議事では、鈴木教仁事務局長が提起した活動方針（案）などに対して、3名の代議員が発言。安全の確立、労働条件の向上、人手不足への対応などの課題に対して、執行部からの答弁を受けた後、全ての議案が満場一致で決定した。また、役員を選出では再任した辻村会長をはじめとする6名の体制が確認された。

大会終了後は、参加者全員で「第11回安全ディスカッション」を開催し、安全に関する職場の課題や解決策等を議論した。輪軸組立作業での不正問題、1年間で7件発生したコンテナ落下事故、積荷の偏積対策など、様々な事象に対して問題意識の共有や改善策の検討など、建設的な議論が展開された。特に、コンテナ落下事故の撲滅にむけては、狭くて危険な作業環境の改善や長期留置コンテナの運用改善などが訴えられ、参加者は各社の労使協議を通じて改善に取り組むことを確認した。

